

CCかわさき環境ミーティング

地球温暖化を巡る世界の動向



平成20年7月4日

産業振興会館

川崎市国際施策参与

末吉竹二郎



「低炭素社会・日本」をめざして

平成20年7月4日

地球温暖化を巡る世界の動向

2

低炭素社会の姿

- 地球の吸収力以内に、排出が抑制されている
- 新たな経済成長で、より豊かな暮らしがある
- 都会と地方の、様々な交流が進んでいる
- 市民社会が生き生きとしている




< 低炭素社会を巡る国際競争 >

2°Cラインの死守

- EU 2020年、20%
- 独国 2020年、40%
- 英国 2050年、80%
- 仏国 2050年、75%

ロンドンの渋滞税

- 8ポンドの課金
- 25ポンドへ
- その他、EU行内の都市も
- 独国、CO2基準の自動車税



< 変る米国 >

平成20年7月4日

地球温暖化を巡る世界の動向

7

グラス・ルーツが動く

□ 世論の変化

- 最も心配な環境問題は、気候変動

□ 市の連携

- 京都議定書を、市で実行

□ 地域連合を組む州

- 3つの連携、国際的連携も

新大統領の政策転換

□ オバマ大統領

—2050年、80%削減
規制と排出量取引

□ マケイン大統領

—削減法案の提案者
2050年、60%削減



<日本の転換点—2008年>

漸く、政策への反映

<6月>

- 4日 民主党、基本法案提出
- 9日 福田ビジョン
- 11日 自民党対策本部、中間報告
- 16日 首相懇談会、提言
- 25日 東京都、条例改正

<7月>

- 7日 G8サミット
- 9日 MEM会議



< 社会の中の変化 >

1. 問題の深刻化

- 問題の深刻さ、複雑さ
- 解決主体の不在
- 社会のアクターの多様化
- グローバリゼーションの負の遺産

2. ビジネスへの社会の意識の変化

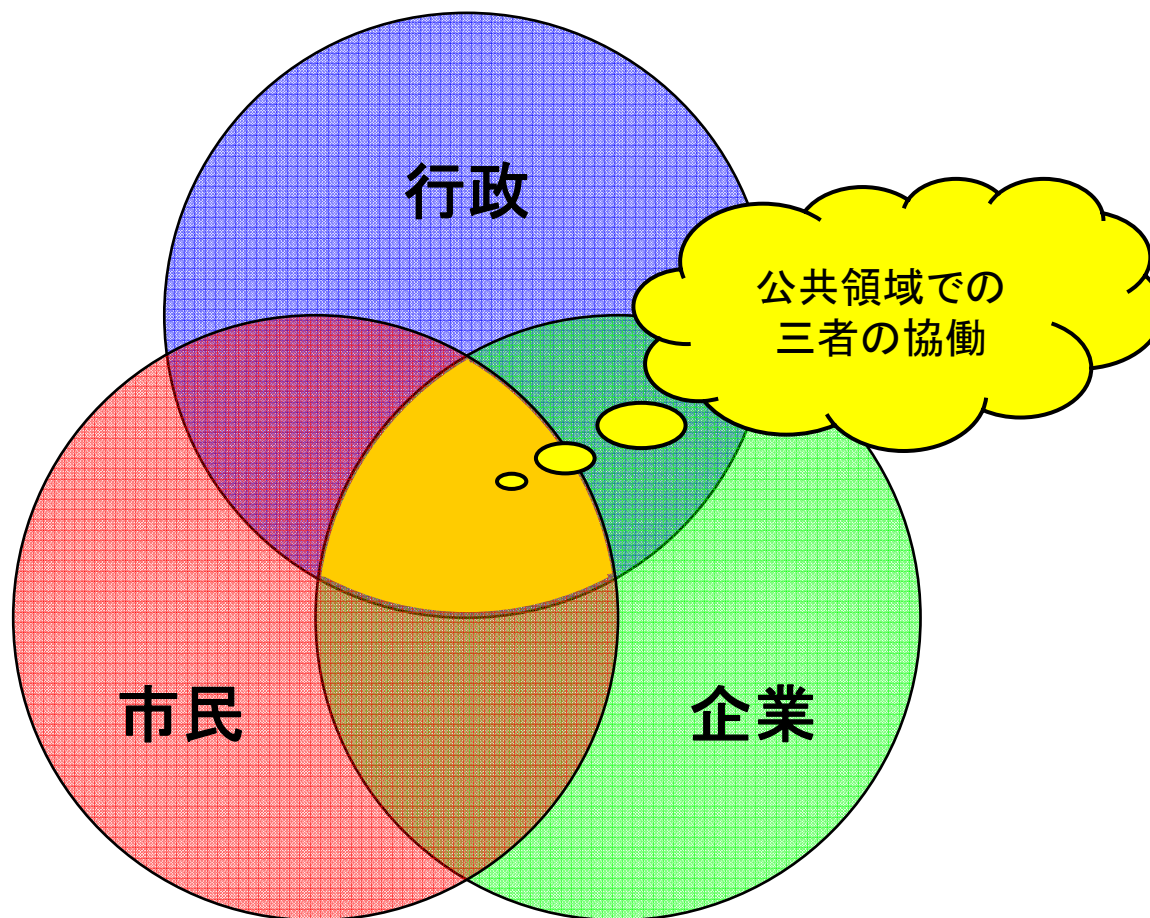
＜ビジネスこそ、問題解決の主体＞

- 社会からの監視の目の強化への対応
- 公共的存在への意識改革
- 地域の健康＝ビジネスの健康

3. 市民の目覚めと負担の受け入れ

- 市民意識への目覚め
- 地球環境など問題への理解の深まり
- 社会貢献への希望

4. 3者の協働体制のすすめ





おわりに

市民社会の声を！

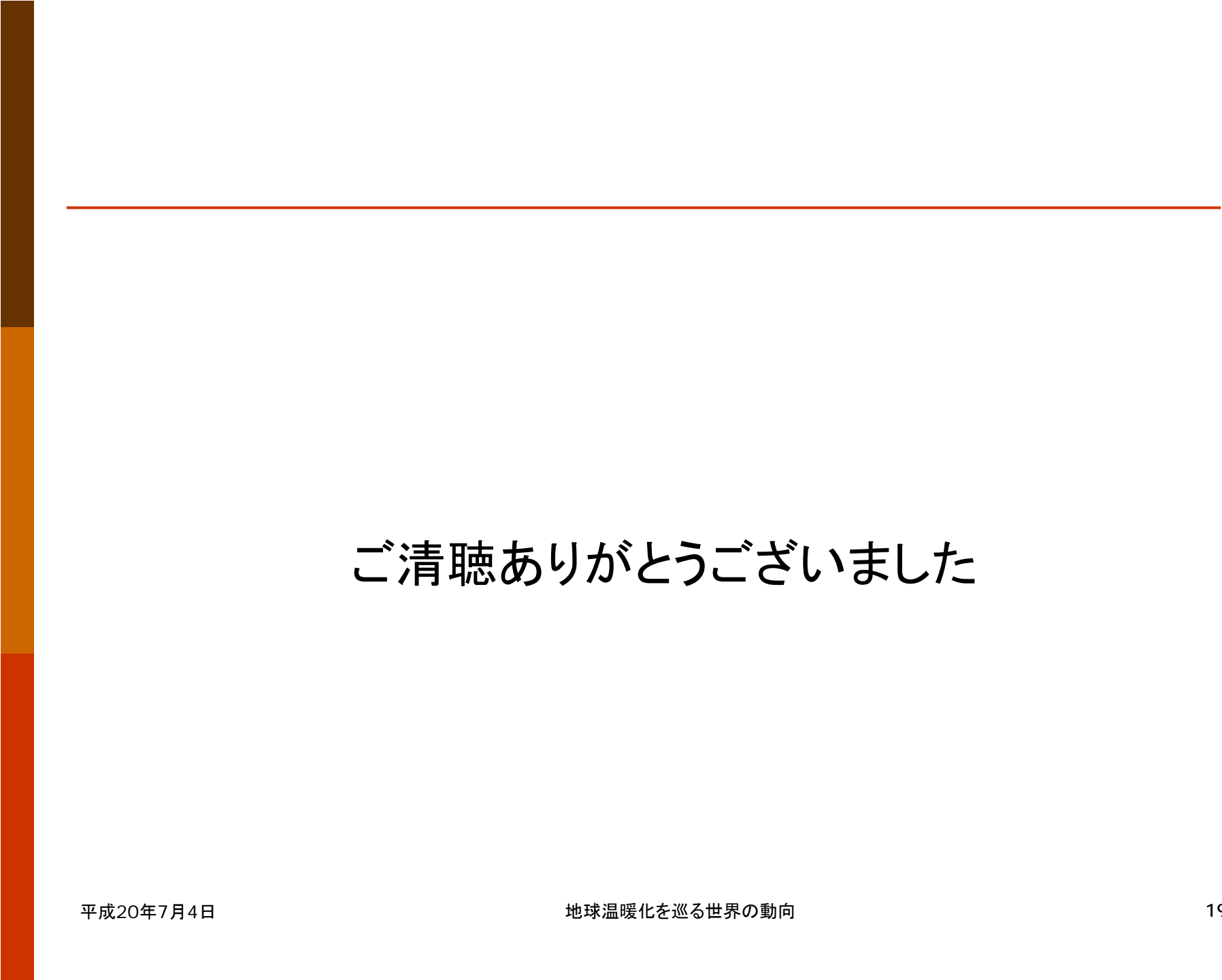
19世紀・米国先住民のことば

最後の木が死に、

最後の川が毒され、

最後の魚を採ったとき、

人はお金は、食べられないと気づくのだ



ご清聴ありがとうございました